

第 2 次山武市総合計画

基本構想（案）

平成 31 年 2 月

山武市

基本構想（案）

1. 基本構想の考え方

基本構想は、山武市のまちづくりの普遍的な方向性を示すものです。

このため、山武市の地勢やまちの成り立ちをもとに「まちづくりの将来展望」を示し、これに基づき基本計画及び実施計画を策定します。基本構想の期間は 4 年間とし、市勢を示す「まちづくり指標」を設定し、まちづくりの状況を把握できるようにします。

《重点分野や市長の施政方針の考え方について》

基本構想及びまちづくり指標の達成に向けて、いつまでに、どの程度、どのような方法で取り組むかは、市長の施政方針を踏まえた『基本計画』で定めることとします。

2. 基本構想

山武市は、太平洋の青い水平線と白い砂浜のコントラストが美しい九十九里浜、そしてその後背地に広がる田園地帯、森林を有する丘陵地帯で構成された自然環境に恵まれた都市であり、**海岸、田園、丘陵という豊かな自然環境を活かしたまちづくりを進めます。**

日本有数の国際空港である成田国際空港に近接するとともに、市域には首都圏中央連絡自動車道（圏央道）が走っています。今後、成田国際空港は更なる機能強化が図られ、圏央道も 2024 年の全線開通を視野に事業が進んでいます。地域づくりを大きく左右する、**成田国際空港と圏央道ネットワークを意識したまちづくりを進めます。**

市の高齢化率も 3 割を超え、日本全体の傾向と同様に、人口減少が進んでいます。人口維持のためには、市民が暮らしやすく住み続けられる環境を確保するとともに、市外の方が魅力に思い、訪れ、住まう価値を創造していくことが必要です。同時に、市民の安心安全を確保しながら、人口減少に対応した行政運営も求められています。そのため、**将来に渡って持続可能で魅力あるまちづくりを進めます。**

3. 基本構想の状況を示すまちづくり指標

基本構想の状況、まち全体の『市勢』を示すまちづくり指標を設定し、基本計画終了時に確認を行います。

① 山武市の人口（52,222 人）

② 合計特殊出生率（0.91）

③ 社会人口増減数（▲151 人）

④ 納税者1人当たり所得（268 万円）

⑤ 地域経済循環率※（66.1%）

⑥ 市内・近隣団体への通学・通勤割合（73.5%）

⑦ 山武市の認知度（919 位）

⑧ 山武市が住み良いと思う市民割合（75.4%）

指標の出所

- ① 国勢調査（平成 27 年）
- ② 千葉県健康福祉部健康福祉指導課（平成 29 年）
- ③ 千葉県毎月常住人口調査報告書（平成 29 年 1 月 1 日～30 年 1 月 1 日）
- ④ 総務省 市町村税課税状況等の調（平成 29 年 3 月）
- ⑤ 環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）
- ⑥ 国勢調査（近隣団体：成田市、東金市、八街市、富里市、大網白里市、九十九里町、芝山町、横芝光町）（平成 27 年）
- ⑦ ブランド総合研究所 地域ブランド調査（平成 30 年）
- ⑧ 山武市まちづくりアンケート（平成 30 年度実施）

用語解説

地域経済循環率： 地域内のお金の流れを「生産（付加価値額）」「分配（所得）」「支出」の 3 段階で把握するとき、地域経済循環率は「生産（付加価値額）」を「分配（所得）」で割った値であり、地域経済の自立度を示すものです。

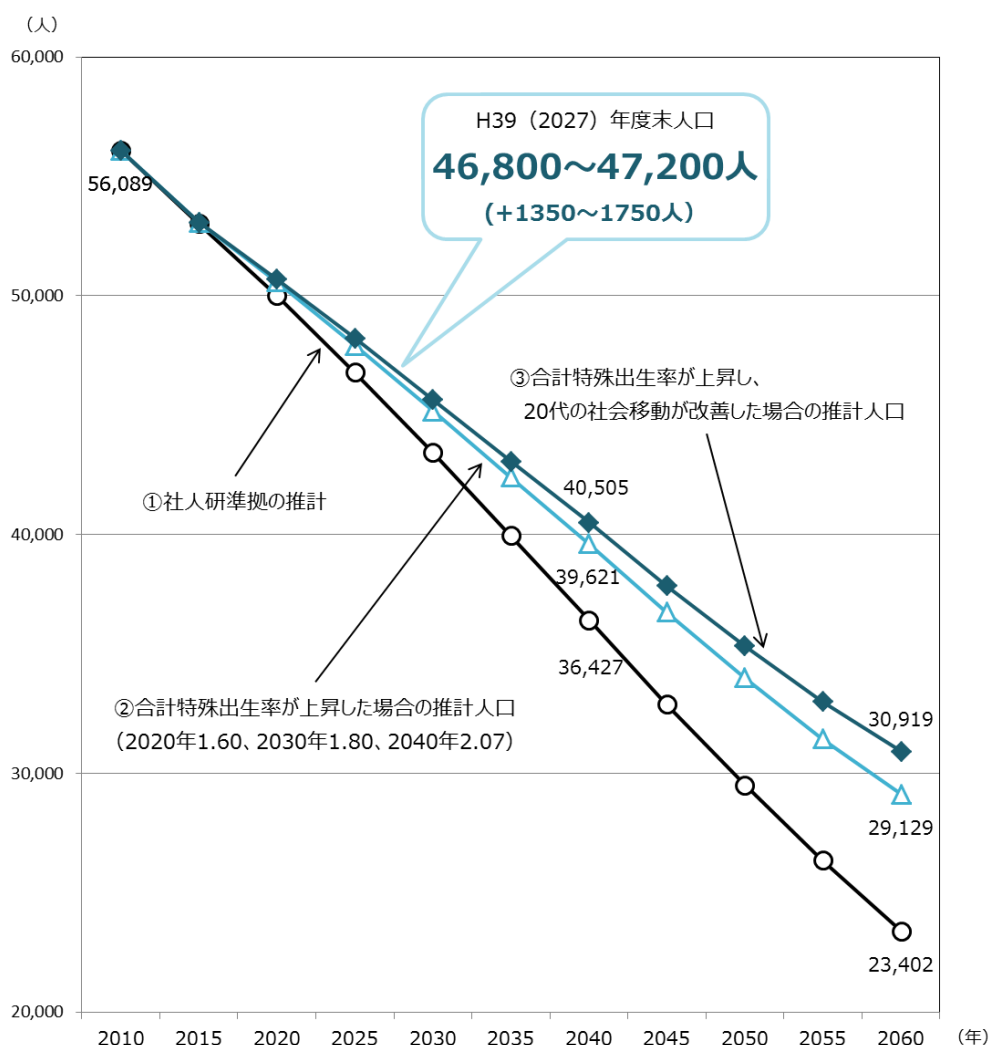
4. 山武市まち・ひと・しごと創生総合戦略の人口ビジョンを踏まえた展開

平成 27（2015）年に策定した山武市まち・ひと・しごと創生総合戦略「人口ビジョン」では、山武市の人口の将来展望を、合計特殊出生率と純移動率の改善により、国（社人研）準拠推計と比較して 2040 年時点で約 3,000～4,000 人増加の 39,621～40,505 人と設定しています。2060 年時点で約 5,700～7,500 人増加の 29,129～30,919 人と想定しています。

本計画では、上記の人口ビジョンを踏まえたまちづくり展開を図り、10 年後の将来人口である

平成 39(2027)年度は、46,800～47,200 人と想定します。

■将来人口の試算結果



出所：山武市まち・ひと・しごと創生総合戦略「人口ビジョン」

- ① 国立社会保障・人口問題研究所の基準による推計
- ② 合計特殊出生率を平成 32（2020）1.60、平成 42（2030）年 1.80、平成 52（2040）年 2.07 に上昇と仮定
- ③ 上記②の合計特殊出生率の仮定に加え、20 代の社会移動が半減した場合の仮定

5. 土地利用構想

本市の持つ歴史的、自然的、社会的特性をふまえ、それぞれ地域にあったまちづくりを推進します。このため、大きく 4 ゾーンに区分し、恵まれた自然環境と調和のとれた秩序あるまちづくりに向けて、効率的な土地利用の促進に努めます。

① 丘陵価値創造ゾーン

丘陵価値創造ゾーンには首都圏中央連絡自動車道（圏央道）が横断し、その周辺には、緑豊かな丘陵地と、にんじん、さといもなどの野菜やスイカ、なしなどの果実が栽培された農地が広がっています。この地の利を活かし、首都圏の食料基地として、安全・安心・新鮮など消費者ニーズに的確に対応した都市近郊型農業の発展に努めるとともに、観光農園や体験農業の充実を図り、都会の人々との交流による体験型農業観光の推進に努めます。

また、自然環境との調和に留意しながら、成田国際空港への交通アクセスに恵まれた好立地を活用し、工業や流通業などの拠点機能の集積や、首都圏としての定住環境機能の整備充実などを促進します。

② 市街地ゾーン

市街地ゾーンは、本市の中央部に位置し、国道 126 号が横断し J R 総武本線と東金線が接続するなど交通の要所であり、また行政拠点として本市の中核を担う重要な地域です。国道周辺には、大型商業施設などの生活関連施設や市役所をはじめとする公共機関が集中し、一方ではいちごの観光農園が軒を連ねるなど、利便性が高く、賑わいを創出している地域となっています。

今後は市街の景観にも充分配慮し、国道沿線及び成東駅や松尾駅周辺などの交通アクセス拠点の環境整備に努め、計画的な市街化の誘導を図ります。

③ 田園価値創造ゾーン

田園価値創造ゾーンには、広大で肥沃な水田が広がりを見せ、本市有数の農業生産地帯となっています。特に本市を含む周辺地域は、水稻の早場米地区として古くから知名度があり全国的にも需要があるため、地元農産物のブランド化を推進し、農地面積の集約化による農業経営の大型化や、遊休農地の活用を促進するなど、農業の振興に努めます。

また、市内の農産物直売などを通じ、地産地消を推進するためのシステムを構築します。

④ 海浜レクリエーションゾーン

海浜レクリエーションゾーンは、太平洋に面した九十九里浜の一角を形成する成東、蓮沼海岸の白砂青松の自然環境を背景とした、海水浴客で賑わう地域となっています。成東海岸は、県下屈指の長い海岸線を誇り、白く広大な砂浜は南国風のビーチとして人気を博しています。一方、蓮沼海岸には、プールを中心とした様々なレクリエーション施設が整備され、家族連れなどが夏の彩りに一層の賑わいを創出しています。

今後は、この開かれた九十九里沿岸地域で、多彩なイベントを実施しながら、太平洋の青く明るいイメージを通して、本市の魅力を全国にアピールする観光発信地区とします。

また、自然環境に調和した景観の形成や、本市独自の物産の直売や食の魅力の創出などにより、一年を通じて楽しめる観光資源の整備発掘をし、通年型の観光地づくりに努め、来遊者の増加を図ります。

■（参考）主要施設配置図■

